

「REAL LIFE」

幕は閉まっている。

幕前の舞台中央に観音開きの扉（手前開き）が置かれている。

色々な形の扉が舞台上に置かれている。

台詞の書かれた紙が散らばっている。

道化1が扉から出てくる。

道化1

さあさあ皆様、本日はご来場頂きまして、誠にありがとうございました。

公演に先立ちましていくつか注意事項をお伝えさせていただきます。

本日、皆様にお届け致しますこの舞台、日常の中に紛れ過ぎていて存在を知られていない「扉と掃除夫」の話となります。

まずこの扉！一見普通の扉に見えますが、あらゆる時代・世界に繋がる事が出来る扉！ただし、自由気ままな奴なので非常に厄介！

「なんちゃらドア」とはわけが違う！

扉の気まぐれにしか移動できないもんだから、非常に厄介！

私ら道化の持つ手帳に扉の行動予定が示されるんですがね、完全にこの通りに行くとは限らないから、非常に不愉快！

ようやくたどり着いたと思ったら、もう違う場所に移動している。

私らが管理者なはずなのに完全に振り回されて、非常に厄介！

そして扉と共に移動して人間達の記憶を集める、彼ら掃除夫達も

非常に厄介！非情なお節介！

記憶を掃除して扉のエネルギーに使うのはいいが、集めるにももう少しセンスってやつが欲しい！

客席に掃除夫たちが現れる。

道化1

噂をすればなんとやら。閑話休題。

くれぐれも扉を刺激しないよう、電波を発する電子機器の電源は OFF！  
音がなる、振動するのも勿論 NG！匂いが出る飲食も喫煙も NG！  
笑いたければ笑っていいが、私語は是非慎んで頂きたい。  
誰かが約束を破って、皆さんが元の世界に戻れなくなって非常に厄介！な  
事態になったとしても私どもは責任を持ちませんのでね。  
それでは、掃除夫たちと共に、空間を移動することにしましょうか。

掃除夫たちが扉を開く。逆光でシルエットになる。曲が IN。

キャスト達が舞台上位に置かれた扉から出てきて、

舞台上を行き交い、紙を撒いていく。

流れの中で観音開きの扉は舞台奥へ移動させる。

女1 せめて夢の中だけでも、あの人の腕に抱かれてみたい。

・・・あの人の子供を妊娠してみたい。

座付 書きたい脚本があるんだ。舞台はネットゲーム、仮想現実の世界。

だけどこれは俺らの話でもある。

母 お父さん・・・お願い、この子の目を覚まさせてちょうだい。

女優 ねえ、最後をお願い。出して。大丈夫だから。

女友達 やりがいのある仕事して、美味しいお酒があればそれで十分。

男1 娘か・・・

スポットが男1にあたる。

男1　これがまさしく夢。

曲が高まって、暗転。

### 【Chapter 1】旅は始まりを繰り返す

時を刻む音が聞こえてくる。

観音開きの扉の奥で、女1が寝ているのが見える。

研究員が入ってくる。

掃除夫たちは掃除道具で、散らばっている紙を集め始める。

研究員　今日も特に異常なし。

身体の状態を確認し、カルテのようなものに記入していく。

研究員　ま、これはこれで、異常か。

女1の母が入ってくる。

研究員と母が話しているがあまり聞こえない。

同空間にいる掃除夫たちの声がメインとなる。

掃除夫1は集めていた紙を拾い上げる。

掃除夫1

新米！

新米掃除夫

はい！

掃除夫1

ここに書いてあることを読めるか？

新米掃除夫

えーっと「娘の病状はどんな感じでしょうか」

掃除夫2が次の紙を差し出す。

新米掃除夫は一瞬戸惑う。

新米掃除夫

「我々にも何とも言えません。体に全く異常はなく、本当にただただ寝ている状態としか言えないので。」

掃除夫 1

よし、文字が読めるなら大丈夫だな。

新米掃除夫

ええ？どういうことですか？

掃除夫 2

じゃあまあ、二つの紙の違いがわかるかな。

新米掃除夫は、少し考えて。

新米掃除夫

この母親の言葉と、研究員の言葉、という違いですか？

掃除夫 1・2

せ〜いかい！

掃除夫 1

こっちが、母親で。

掃除夫 2

こちらは、研究員。

掃除夫 1

扉と供に移動して、人々の言葉を回収し、記憶を掃除する。

掃除夫 2

簡単な仕事でしょ！

新米掃除夫

はあ・・・

掃除夫 1

この記憶は扉のエネルギーとなる。

掃除夫 2

そして、新しい記憶が生み出される。

掃除夫 1

じゃあ、いま回収した言葉を振り分けてみよう。

掃除夫 1・2、新米掃除夫は紙を拾い上げる。

読み上げた紙は、二つの袋にそれぞれ入れていく。

母と研究員のリップと読み上げたセリフはあまり連動しない。

(拾い上げた紙は、過ぎ去った言葉や心境である)

掃除夫 1

「一体娘に何が起こっているのか・・・」

掃除夫 2

「お母さん、我々も尽力させていただきます」

新米掃除夫

「天国のお父さんに会わせる顔がないわ」

掃除夫 1

「娘さんに話しかけたり、体を触ったり、刺激になるような事を是非やっていただきたいです」

新米掃除夫

「出来ることは何でもやらせて頂きます」

掃除夫 2

「娘さんが少しでも意識を取り戻すきっかけになるために

掃除夫 1

ご友人や、彼氏を呼んで刺激を与えるのも効果的だと思います」

掃除夫 2

「声かけをしてくれる人を募りたいと思います」

新米掃除夫

「お母さん、希望を持ちましょう！」

「したっけ、なまらわやっしょ！」

三人紙から目を離し、顔を見合わせる。

新米掃除夫

・・・？

掃除夫 1

なんか変なの混ざってんな。これはとりあえず別にしといて。

掃除夫 2、少し形が変わった袋を取り出して紙を入れる。

研究員は、母に会釈し、いなくなる。母は娘の手を握る。

掃除夫 1

たまに、こういうこともある。そういうときは、この袋に入れる。わかったか？

新米掃除夫

・・・会話の流れも重要なんですか？

掃除夫 2

ごちゃ混ぜにすると、後々ひどい目に合う。

掃除夫 1

じゃあ、そろそろ次行くかぁ。扉が早く移動したがっている。

掃除夫 1が扉を閉めて、母と女を見えなくする。

いつの間にか、客席から現れている男 1。

新米は男 1のほうをふと立ち止まって見やる。

掃除夫たちはいなくなる。時を刻む音が消える。

【chapter 2】時は巻き戻される

皆（出演者）の「夢」が語られる音か映像の MIX。

男1は舞台上上がってくる。

男1  いつの頃からか夢を見なくなった。

劇団を有名にしたいという夢は追いつけているのに。

稽古とバイトに追われる日々で家に帰ると晩酌しながら寝る始末。

アラームに叩き起こされて今日もまたバイトに出かける、その繰り返し。

サラリーマンに押しつぶされながら「売れてやる」と心の中でつぶやく。

人生の選択は間違っていない。

ただ、役者として演出家として舞台に関わる内に、ふとわからなくなる。

これは、本当に私の人生なのかと。

普段、自分は自分を演じて生きている。

役者として、観客に夢を見せたいから、夢を魅せる存在でありたいから

様々な他人を演じ、様々な世界を、舞台を、演出する。

私は死ぬまで役者として舞台に立ち続けたい。舞台に生き続けたい。

私の中の有象無象が自らの終わりを告げて

新たに始まる今日となる。

男1は舞台上から、客席の床を見ている。

【chapter 3】再び会場の

電話が鳴る。電話をとる男1。

座付き作家の音声が聞こえる。

座付 もしもし

男1 ああどうした？

座付 今、時間大丈夫？

男1 うん、大丈夫。

座付 ……本当は会って話さないといけないことだってわかってるんだけど。

俺……劇団辞めさせてもらおうわ。

男1 は！？ちよっと、どういうことだよ、お前！

座付 家業を継ぐことにした。

男1 え、お前継がないって言ってたじゃん。

それに、お前がいなくなったら、誰がホン書くんだよ！

座付 瞳が俺の子を妊娠したって言うんだ。

男1 ……

座付 父親になる覚悟を決めたから、劇団を辞めて、働く。自分の家族のために。

男1 ……

座付 瞳も一緒に劇団を辞めるから。

男1 ……

座付 本当に申し訳ないと思ってる。10周年記念公演やったばかりなのに。

…俺も、こんなことになるとは思ってた。

男1 ……

掃除夫1・2が現れて、紙を回収している。

座付 本当に……すまないと思っている。

男1 ……電話でこんな話済ますんじゃないよ。

座付 わかっている。劇団のみんなには……

男1 (遮って) いや、やっぱり電話でいいわ。

お前の顔見たら、殴りたくなるから。

座付 劇団の皆には、俺が自分で事情を連絡する。



男1 解散する。

座付 え・・・？

男1 劇団は、解散する。みんなにもそう言うから。

10周年記念公演やったばっかでちょうど区切りがいいし。

俺らの関係の終わりとともに劇団が消えた方がいい。

・・・お前の書く脚本が好きだったんだよ。お前が描く世界が・・・。

だから、だから・・・

座付 ・・・申し訳ない。

男1 「月のうさぎよ何見て跳ねる」

座付 ・・・

男1 俺ら、一緒に夢を見ていたんじゃないのかよ！

座付 見ていたよ！俺も、夢見て未来に跳びたかったよ！

だけど、夢だけじゃ・・・夢だけ見ているわけにはいかなかったんだよ。

男1 ・・・腹ん中の子供、本当にお前の子供か調べた方がいいかもな。

座付 ちよ・・・

男1、一方的に電話を切る。携帯を見つめている。

携帯に何かを打ち込み始める。掃除夫たちは紙を読む。

掃除夫1 「瞳のやつ、何やってんだよ。いくらなんでも身近な人間選り過ぎだろ」

掃除夫2 「劇団解散って勢いで言ったけど、なくなっただろうすればいいんだらう俺」

掃除夫1 「なまらわや」

掃除夫2 また出てきた！なんだよ、なまらわやって。

掃除夫1 「なまらわやは、なまらわやっしょや」

掃除夫2 どこかの方言ってことはわかるんだけどさ。

掃除夫1 観てる人の気持ちか、なんかじゃない？

掃除夫2 それどうということ？

携掃除夫たちは、紙を回収していなくなる。

いつの間にか道化1が出てきている。

不思議な動きで男1に近づく。

道化1 お忙しいところ失礼致します。ちょっとお時間よろしいでしょうか？

男1 はい？

道化1 1〜2分程度で済みますので、質問よろしいでしょうか。

男1 今ちょっと立て込んでるんで。

道化1 この写真の人物を知っているかどうか教えて頂くだけでいいですよ。

男1 いや〜ちょっと知らないですね。

道化1 おかしいな、あなたは知っていると思うんですけど？

男1 どういうことですか？

道化1 多分、忘れてるだけだと思うんですよ。

男1 いや、知りませんよ。(携帯に目を移す)

道化1 もう一度この写真をよく見てください。(携帯の前に写真を差し出す)

見れば見るほど思い出さないですか？

男1 おかしなこと言わないでくださいよ。

知らない人のことは思い出せませんから。

道化1 記憶っていうのは、非常に厄介！でしてね。自分の都合の良いように

書き換えられるんですよ。多重人格のようなこともありますしね。

潜在意識に眠っている記憶を呼び起こしてくれませんかね。

男1、場所を移動しようとするが、写真を無理矢理手渡す道化1。

道化1 この写真の男は、誰かに殺されてしまったんですよ。

男1 !？

道化1 誰に殺されたのか、それを我々は探っているのですけどね。

そもそも、この方のことを覚えている人が見つからないんですよ。

なぜ何でしょうね。非常に厄介！なこともあるもので。  
だから、こうして皆さんの記憶に訴えかけてみているんですよ。  
男1 ……わかりました。とりあえず写真は預かりますけど、  
思い出せるかどうかの保証は出来ませんから。

男1 立ち去る。道化1が扉の中に入る。  
掃除夫たちが扉から出てきて、女1が寝ているのが見える。  
母親も一緒。

#### 【chapter 4】狭間に落ちる

時を刻む音が聞こえる。母親が女1の手を握り話しかけている。

母 ……お父さんが天国に旅立って、  
色々手続きも終わってようやく落ち着けた日の夜、  
お母さんの手を握って言ってくれたよね。  
「大丈夫、私がお母さんを支える」って。  
覚えてるかな……。本当に、本当に嬉しかったけど。  
お母さんのためにがむしやらに働いて……。  
こんなことになっちゃって……。  
ごめんね……。ごめんね……。  
お父さん……。お願い、この子の目を覚まさせてちょうだい。

女1の友達が入ってくる。母親に会釈。母立ち上がる。

女友達 ご無沙汰しております。この度は……

母 智子（ともこ）さんお久しぶり。来てくれてありがとうね。

娘が迷惑をかけて、ごめんなさい。

女友達 いえ、逆に申し訳ありません！

母 どうしてあなたが謝るの！

女友達 会社を立ち上げて、自分たちのやりたい仕事を形にできるって

二人でこのブランドを世界に売り出していくんだって夢を見て。

忙しいけど充実していて、疲れを忘れて働いた結果だと思っんです。

母 ・ ・ ・

女友達 私、自分のことしか見えてなかった。彼女の体の異変に気付いていれば。

私が一番ずっと近くにいたのに。

母 椅子に座って、一緒に娘に話しかけてくれないかしら。

ここの人にも、何かしら刺激を与えた方が意識が戻るきっかけに

なるかもしれないって言われたのよ。

女友達 喜んで。

母 私の知らない娘のことを教えてください。

女友達 そうですね ・ ・ ・

椅子に座ると母と友達はずり。時を刻む音もカットアウト。

女1が起き上がり、用心深く辺りを見回しながら歩きます。

女が扉を閉める。

女1 多分、この辺だと思っただけだなあ ・ ・ ・

扉に貼られている紙を見ている道化2。

女は、一瞬声をかけるか迷う。

女1 あ、あの！

道化2振り返る。

女1 すみません。このあたりに富士見幼稚園ってありませんでしたでしょうか？

道化2 え？・・・いや、この辺りにそんな名前の幼稚園はなかったと思いますよ。

女1 え・・・そんなはず・・・。この住所って、桜が丘1丁目ですよね？

道化2 そうですね。

女1 だったら絶対にあるはず。

道化2 とりあえず交番行きます？

女1 ・・・交番？

道化2 いや、僕が知らないだけかもしれないですし。1丁目って言っても広いし。

女1 ・・・交番まで連れてって頂けないでしょうか。

道化2 通り道なので、いいですよ。すぐ近くですし。

道化2、女を連れていく。

掃除夫たち、新米掃除夫が扉から出てくる。

新米掃除夫 ここはどこになるんですか？

掃除夫2 さっき寝ていた女の人の夢の中。

新米 夢の中？夢の中にまで入れるんですか？

掃除夫1 扉は、夢そのもの。俺らも、夢そのもの。

掃除夫2 人間の記憶は夢となり、夢もまた記憶になるのさ。

新米 はぁ（理解不能）・・・。

道化2が扉を開けて、女1を誘う。

母が女に駆け寄る。

母 ゆみ！・・・よかった！よかった！

母、女1に抱きつく。

女1 お母さん！

母 もう、あんたがいなくなってどれだけ心配したか！

悟さんにも連絡したら、すぐ来るって。ちよūd保育園にいたって。

女1 ？？

母 いやもう、本当にどこいたのよ。あんたって娘は！

女1 お母さん・・・あのね、

続いて、女1の夫「亀掛川悟」が入って来る。子供を連れている。

夫 どこ、ほつき歩いてたんだよ！

女1 え？？

夫 どれだけ皆に心配かけたと思ってるんだよ。

女1 ……

夫 まずは言うべき言葉があるだろ。

女1 ……あの、何が何やら……

母・夫 ！?!？

夫 一週間もいなくなってる、言う言葉がそれなのか？

女1 い、一週間？？私はいなくなってもないし。この状況が全くわからない。

ちよūd、なんのドッキリですか？？

母 私の方がドッキリなんじゃないかって思うぐらいよ。

女1 母さん、どう言うこと？？

母 どう言うこと、って突然あなたが姿を消して、全然連絡も取れなくて。

搜索願い出して、公開捜査に切り替えようか、って話してたところなのよ。

夫 子供がいるって言うのに、突然いなくなるなんて……

女1 ちよūdと待って！私には旦那も子供もいなかった！

父さんが死んで、母さんを支えるため一生懸命仕事して。

一人前のデザイナーになって、智子と独立してこれからって時だったのよ。

それが、なんで……。私の家族は母さんだけよ！

母 ちよっと父さんが死んでって……(次の夫のセリフと声がかぶる)

夫 仕事は、子供が生まれるからって辞めただろ

女1 そもそも、貴方とは結婚なんて……。

夫 俺らのことだけ記憶喪失になったって言うことか？

女1 ……貴方の顔は知ってる……

夫 顔は知ってるって……

女1 記憶はなくしてなんかないけど、この状況は全くわからない。

夫 とりあえず、家に帰ってゆっくり思い出していこう。

女1 ……。

夫 大丈夫だよ。思い出せるって。

女1 ……。

女の父(シルエット)が入って来る。曲IN。

女1 父さん……？

掃除夫たちは、読み上げながら、袋に詰めていく。

掃除夫1 「父さんが生きてるなんて、夢みたい。」

掃除夫2 「一目惚れした人と結婚してその子供もいる世界……」

新米 「夢なら夢で、嫌になれば目を覚ませばいい。」

掃除夫1 「家族団欒って、あったかい。」

新米 この人は、夢から覚めるんですかね？

掃除夫1 さあ？それは本人が決めることだから。

掃除夫2 変えられるのは、道化だけだよ。

新米 道化だけ……。

台詞を言いつつ扉の前に袋を置き、扉を動かして、

登場人物を隠していく。掃除夫たちは消える。  
扉には三世代が一家団欒している映像。女は幸せな顔をしている。

## 【chapter 5】 芸術は見る者の目の中に宿る

扉の一つが開かれると映像が消え、男1が出て来る。扉を閉める。

そこはカフェバー。有線放送が流れている。

店員に扮した道化2が出てくる。

座付（亀掛川悟だが、同一人物ではない）が椅子に座っている。

男1 お前、どうしてここに。

座付 こうでもしないと会ってくれないだろ。

男1 今更なんだっていうんだよ！

男1、座付の胸ぐらを掴む。道化2が仲裁するように間に入る。

座付 俺を殴りたければ殴っていい、ただ聞いて欲しい話があるんだ。

というか、聞きたい話がある。

男1 は？

道化2 あの、他のおお客様のご迷惑となりますので・・・

座付 申し訳ありません。とりあえず、落ち着いて、席に座ろう。

男1、辺りを見回す。写真が落ちていることに気がついて拾う。

扉が開き、女1と女友達が入ってくる。

道化2 いらっしやいませ。何名様でいらっしやいますか。

女1 あの予約していた・・・

道化2 それでは、こちらの席でございます。（カウンター横並びのイメージ）



女1と女友達は客席を向いて座る。男1と座付も座る。

女1 とりあえず生2つ。

道化2 かしこまりました。

座付 ホットコーヒー2つ！

道化2 少々おまちください。

道化2、移動する。

道化2 ホットコーヒー2つですね、かしこまりました。

道化2消える。男1と女1の会話が入り乱れる。

掃除夫1・2は、床に落ちている紙を拾い集めている。

男1 話が聞きたいってなんだよ。

女友達 あ、あれ？

女1 ん？

座付 俺が辞めるって電話した時に、最後になんて言ったか覚えてるか？

男1 ああ。

女友達 前に見に行ってた劇団の人達。

女1 あゝよく芝居見に行ってたよね。

女友達 でも解散しちゃったんだよ。

座付 単刀直入に聞く、子供の父親が誰か、知ってるんだろ。

道化2が、お盆に飲み物をのせてくる。

女1は、男1と座付の方を見ている。特に座付の顔。

道化2 生ビール、お持ち致しました。

道化2、男達の机にコーヒーを運ぶ。

女1・女友達 はあゝい、乾杯！

一気に飲み干す二人。

道化2 コーヒーお持ち致しました。

男1 ……

座付 ……

女友達 すみませーん！生2つおかわりで！

道化2 かしこまりました！

座付 ……お前が勘付いてたってことは、劇団の誰かなんだろ。

男1 ……

女1 仕事の後の生ほど美味しいものはないね！

女友達 ほんと！最高だよね！このために生きてるって思えるわ。

座付 最後にそう言われて、なんか、捨て台詞的だったから気にはしてなかったんだけど、子供にミルクあげながらふと思いついて。

調べてみたんだ。自分の子供だと信じて。

女友達 お酒がないと生きていけないから、子供産むとか絶対無理だわ私には！

女1 このアル中！（笑）

座付 結果、ほぼ俺の子供である可能性はなかった。

男1 子供の父親が誰か知りたいとして。知ってどうするつもりなんだよ。

女1 ねえ、芸術は見る人の目の中に宿るって言葉知ってる？

女友達 なにそれ？

座付 どうもしないよ。ただ知りたいだけ。

男1 ……

女1 最近、海外ドラマのセリフで知っただけだね。

座付 娘はすごく可愛いんだ。本当に目に入れても痛くないって思えるほどでさ。

女1 芸術を見てどう感じるのかはそれを見たその人自身の価値観に  
帰属すると。

座付 けど、成長するにつれ瞳に似ればいいんだけど、その父親に似たら？って。

女1 たとえどんなに素晴らしい芸術だとしても、それを素晴らしいと思える人が、  
感じられる人がいなきゃ結局は意味がないってことなんだよね。

座付 可愛い娘の先にいる、血の繋がりの父親の存在が怖くなって、

娘とちゃんと向き合えなくなってしまうんじゃないかって。

男1 ……

女友達 それってなんかバンドの解散理由って感じしない？方向性の違い的な。

「それぞれの見えてる景色が変わってしまった」とかカッコつけて

言ったりするじゃん（笑）

女1 わかる、わかる（笑）離婚理由第一位の、価値観の違いってのもそれかも  
ね。

同じものを見ていても、素晴らしいものと分かり合えないとね。

座付 その時の覚悟をするためにも、今本当の父親を知っておきたい。

男1 お前は劇団じゃなく家族を選んだんだ。瞳と娘を大事にすればいいだろ。

座付 父親が劇団の誰かなら、劇団員は俺にとって家族も同然の存在だったから

大丈夫な気がするんだよ。なあ、教えてくれよ。

男1 ……劇団の中の誰かではある。それで十分だろ。

娘を大事に育ててやれよ。

道化2がビールを持ってくる。

男1、千円札を置いて、店を出て行く。

道化2、店を出て行く男1を見る。

道化2 ありがとうございます。はい、ビールお代わりお待たせ致しました。

女友達 はくい。(ビールを受け取る二人)

女1 このことわざをね、美はそれを見つめる瞳の中にあるって訳してる人がいて、それを見て、私かもしれない結婚して子供産む選択をってしまったら、日常に追われるだけで、今デザインしているような作品を生み出す目ではなくなっちゃう気がしたんだよね。それがとっても怖いって思って、芸術を、美しさを感じられる目じゃなくなったら、それは私じゃなくなると思うから。

座付、道化2に対して会計をしている。

座付 どうも、ごちそうさまでした。(立ち上がる)

女1 まあ、母になったら別の感覚が生まれて新しい世界が開けるのかもしれないけど、そうじゃない、そうじゃない気がするんだ、私のデザイナー人生は。

友達 なるほどね。・・・じゃあまあ、独身貴族を謳歌するぞ同盟として、改めて乾杯！

女1 乾杯！

ビールをまた一気飲みに近い形で呑む二人。空間が歪む。

舞台奥に母親と横たわる人が照らし出される。

女1、改めて座付に釘付けになっている。

女友達 どうした？

女1 いや、なんでもない。呑もう！

女友達 そうそう！とことん今日は呑むぞー！

掃除夫1 「せめて夢の中だけでもあの人の腕の中で眠りたい」

掃除夫2 「ビール最高」

女1 ねえ、さっきいた劇団の人の話聞いてもいい？

女友達 ああ、さっきいた二人はね、演出家と座付作家だった人。

女1 先に帰ったのが？

女友達 演出家。公演規模も少しずつ大きくなってたし、10周年記念公演もやってこれからって感じだったんだけどね。

女1 座付作家って？

女友達 その劇団だけに脚本を書いている人のこと。

女1 座付ね・・・。

女友達 SF要素があつて、アクションもあつて、熱い男同士の友情みたいな話で最後には泣けて。直球なストーリーだったから好きだったんだよね。

女1 解散したって言うのは・・・？

女友達 理由はよくわかんないけど、とにかく突然だったよ。

女1 そうなんだ・・・。

女友達 どうしたの急に興味持って。なんなら公演のDVD 持ってるから貸そうか？

女1 ありがとう。なんて言うのか、青天の霹靂。

女友達 え？

舞台映像（10周年記念公演）が映し出される。

女1、女友達は消える。

## 【Chapter0】ツークツワンク

扉2つに照明が当たる。道化1・2が枠の前に現れる。

道化1 ツークツワンク♪ツークツワンク♪ツークツワンク♪

道化2 その言葉好きだねえ。

道化1 負けることが決まっているとわかっているのに、そこから逃げられない、

なんか刹那的だよねえ。

道化2 所詮はゲームの中の話だよ。

道化1 世の中のルールから外れられないのが人間ってものですよ。  
非常に厄介！な存在さ。

道化2 あ、また注文きた。あの二人よく飲むなあ。

道化1 じゃあ、そろそろお互いの役目に戻りますかね。

道化2、消える。道化1は、手帳を取り出す。

男1が入ってくる。掃除夫たちは紙を上手へ下手へ

交互に掃いていく。

道化1 あの、すみません。

男1 (無視して通り過ぎようとするが、掃除夫たちに邪魔される)

道化1 また会いましたね・・・。

お渡しした写真の男のこと、思い出して頂けましたか？

男1 ……まだ探してるんですか？

道化1 そうですよ。それが私らの誇りある仕事ですから！

私どもに探せないものはありませんよ！

男1 いや、同じ男の人を探し続けてるじゃないですか。

道化1 そうです、探しています。けれど、諦めてはいないのです。

この世の中には、なかなか探しづらいものがありますね。

なんだと思います？

男1 さあ・・・

道化1 記憶ですよ。

男1 ……

道化1 記憶は、忘れ去られてしまうんですよ。ただ、忘れたとしても

決して消滅しているわけではない。心の奥底に沈められているだけ。

潜在意識の中には、記憶がちゃんとあるわけですよ。

だから、私たちはそれがふとした瞬間に浮き上がってくるのを待っている。必ず存在しているのですから、諦めずに探し続けているのです。

男1 前も言った通り、写真の男は知らないですよ。

道化1 そうですかね。あなたにも見えていると思うのですよね。

男1 ？

道化1 さっきから、こちら辺を掃除してる男たちが見えてますよね？

男1 それがどうしたんですか。

道化1 彼らは、人々の記憶を掃除しているんです。

男1 だから・・・

道化1 彼らは存在しているのに、あまりにも風景に溶け込みすぎて気がつかれていない。見られていない存在。

そんな彼らが見えているということは・・・

男1 さっきから言ってる意味がさっぱりわからないんですけど。

道化1 じゃあ、少し私の手伝いをして頂けませんか？

男1 ・・・

道化1 あなたが探したいものをタダで探してあげますよ。

男1 ・・・探して欲しいもの・・・。

道化1 何か一つぐらいはあるでしょう？探しているもの。

男1 あるっちゃありますけど。

道化1 タダでいいって言ってるんですよ。お得じゃないですか？

男1 夢・・・

道化1 夢！非常に厄介でスタンダードな探しものですね！問題ないでしょう！

さあ、時間の余りはありませんよ。（手帳を開いて何かを書き込む）

えーっと一番近くなのは・・・（男の手を引っ張る）

扉の中をうろちよろ駆け回る二人。

扉を開けると掃除用具が倒れてくる。

道化1 おお！扉の野郎、人をおちよくりおってからに！こっちか！

隣の扉を開けて、男に中を見せる。扉の中には、10年前に劇団結成をして勢いがあった頃の自分たちの姿が見える。

(映像？)

男1 え？

道化1 先ほど見た記憶の掃除夫たちはこの扉と共に移動してましてな。

扉はあらゆる場所・時間に行くことができるが、決まった場所には現れない。非常に厄介！な存在。ただ、我々が探しているものを探すには非常に便利なツールだ。

男1 夢を探して欲しいって言ったから、過去の僕を見せたんですか。

道化1 あれ、違いましたか？

男1 劇団はもう、僕の夢ではないです。

道化1 扉は夢に繋がるはずなんですけどね。

男1 ？

道化1 閑話休題。写真の男の情報を探しましょうかね。

ほら、写真を出して。

男1 写真は・・・(ポケットから写真出す)

道化1 さあ、準備は万端。行きますよ。

道化1は、男の肩に手を当てて押していく。

男1 ちょっと待ってください！

道化1 残念ながら、扉は待ってくれないんですよ。

雑踏の音が耳を撃く。出演者全員でてくる。

スローモーシヨンのようなコマ撮りのような動きで行き交う。



掃除夫たちだけが、その中を自在に舞い踊っている。

道化1と男1が扉を開け閉めして移動していく。

雑踏は波の音に変わり、そこは浜辺になる。

男1　こんな中で、どうやって情報を収集するんですか。

道化1　潜在意識を掘り起こさないといけないんですよ。

男1　それは、さっき聞きました。

道化1　どうやったら、掘り起こせるか知ってますか？

男1　どうやるんですか。

道化1　嗅覚と聴覚に訴えるんですよ。視覚にとらわれないようにして。

潜在意識から記憶を呼び戻す方法を。

道化1が扉を開けると暗転。波は消え、甘い香水の匂いが香る。

暗闇の中。女優(瞳)、男1の声が聞こえる。

女優　ねえ・・・返事は？

男1　・・・ごめん。

女優　わかった。

男1　劇団が売れてそれで飯が食えるようになるまで、俺に結婚する気はないんだ。考えれば考えるほど、そう思えてきて。

女優　劇団だけじゃダメだって。私ら、イケメンや美女ってわけでもないし。どうやったって、これだけじゃ食べていけないよ。

十年だよ、十年！冷静に考えればわかるでしょ。

男1　夢を見ちゃダメなのかよ！

女優　夢は見ていいよ！ただ、現実も見なくちゃいけないって言ってるの。

男1　結婚とか、家族とか、俺には無理。

女優　わかった。

男1　また元の関係に戻るだけ。いち女優といち演出家。それだけの関係に。

女優 ……ねえ、最後にお願ひ……。 (キスの音)

出して。大丈夫だから。

声が止む。扉が開き照明が部分的につく。男1俯いている。

男1 ……あの時……。俺……

道化1 まあまあ非情な世界!

男1 あの時のことを見せられても……。

男1逃げるように率先して扉を開ける。

掃除夫たちにスポットが当たる。

紙の束を持ってしゃべりだす。座付と瞳の会話。

座付と瞳にもスポットを当てる。

掃除夫1 「瞳、本当の父親は誰なんだ」

掃除夫2 「本当も何も父親はあなたよ」

掃除夫1 「誰かと二股かけてたんだろ、劇団辞めるって報告したら、父親が誰か調べた方がいいってあいつに言われたよ」

掃除夫2 「お腹の子供は、貴方の子だってば」

掃除夫1 「……そう信じたい」

掃除夫2 「……そう信じたい」

掃除夫1 「信じていいんだな」

掃除夫2 「……信じてよ、夫婦でしょ」

掃除夫1 「わかった」

掃除夫2 「……私の人生最大の賭け事」

男1 瞳は俺じゃなくあいつを選んだ……。

道化1 女心ってやつはよくわかりませんなあ。非常に厄介!

男1 (写真を見つめる) この写真の男は、俺の人生に何か関係あるんですか。  
さつきから、見たくないものを見せられてる。

道化1 さあ、搜索を続けましょう。(手帳を見て) 多少、時間も空間も  
行き来しますからな。混乱しないように。

ま、扉がこの通りに移動させてくれるなら、ですけどね！  
ほんにまあ、非常に厄介！

男1 ちよっと！

道化1 行きますよ！

道化1が扉を開ける。掃除夫たちは紙を一箇所に集めている。

女優が膨らんだお腹を大事そうに撫でている。

女優 ママは、早くあなたに会いたいわ。大事な大事な私の娘。

貴方が私の夢……。 (手に写真を持っている)

本当のパパは、ママよりも夢が大事って言ってたけど。

パパを恨んじやダメよ。それも含めてママは愛してたんだから。

男1 ……これを見せて、どうだって言うんですか！

道化1 さあ？掃除夫たちが集めている記憶のせいかなあ……。  
非常にお節介！ですな！

男1 これである男にたどり着けますか……。 (女優の手にある写真に気がつく)  
道化1 何を言ってるんですか。貴方が思い出すことが第一目標ですからな！

あ！

男1 その写真！

女優 え……。？

道化1 あ、あ、えっと……。

男1 この写真と、同じだ。

女優 同じ？

道化1 この写真の人物を知っている人を探しているんです。  
私たちは探偵でしてね。素行調査とか色々ね・・・

男1 お腹の子の父親。

女優 パパ。

道化1 あ！やばい、我々は移動しないと！

男1 写真の男のことは？聞かないと！

道化1 介入しすぎるのもよくないのでね！

男1 意味がわかんない！

道化1は男1を無理やり引っ張っていく。

扉を開けると、座付が出てくる。

## 【chapter7】声にならないう想い

掃除夫1 「10周年に当たって書きたい脚本があるんだ。舞台はネットゲーム、  
仮想現実の世界。だけどこれは俺らの話でもある。」

掃除夫2 「絆の話か。面白そうじゃないか。」

劇団の10周年記念公演。男1はセンターに立つ。

道化1と道化2も劇団員のように参加している。

曲がかかる中、公演が行われている。

掃除夫たちは、曲に合わせてセットを動かしている。

男1 月のうさぎよ何見て跳ねる！

座付 月のうさぎよ何見て跳ねる！

男1 月から見える地球はどうですか？

月から見える僕らは、一体どう見えていますか？

座付 月から見た君は・・・

月から見た君は、変わらず僕らの夢であり続ける！

男1 月のうさぎよ何見て跳ねる！

座付 月のうさぎは、君の夢見て未来に跳ねる！

男1 月のうさぎよ！

座付 いつか、僕らは出会えるのさ！いつか、必ず！

そして・・・夢を創るんだ！

男1 月のうさぎよ何見て跳ねる！

座付 君の夢見て未来に跳ねる！

音が止む。男1だけにスポットが当たる。

男1 いつか必ず、夢をまた創ろう。

暗転。

道化1 いい舞台！（拍手）いい舞台だ！（拍手）

男1 10周年公演を見せられても！さっきの説明をしてくださいよ。

道化1 説明も何も。だいたいそう言うもんでしょ？

過去に行って、知っている人と接触しちゃダメだって。定説！

さあ、記憶の山もだいぶ高まってきたかな。

男1 納得がいかない・・・。

道化1が扉を覗く。

女1にスポットが当たる。座付は亀卦川悟になる。

道化2は白衣を着ている。

女1 嘘でしょ・・・。父さん、母さん・・・。

夫 ……。

道化2 我々も尽力したのですが・・・ほぼ即死状態で・・・。

女1 崩れ落ちる。道化1扉を閉める。

掃除夫たち、扉を開ける。記憶の山ができています。

男1 記憶の山ができたところで、どうなるんですか。

道化1 最終的には、夢ですよ。貴方が探している「夢」！

男1 ……？

道化1 (手帳を見ながら) もう少しでわかるはずですよ。

先を急ぎましょう。

道化1扉を開ける。

女1が寝ている。研究員が入ってくる。

身体の状態を確認し、カルテのようなものに記入していく。

女1が目覚めます。

研究員 え・・・？

女1 ……

研究員 ……意識・・・

女1 ……(何かを喋ろうとするが声にならない)

研究員 (女の顔の前に手をかざす) 無理に喋ろうとしないでください。

この手が見えていたら、少し顔を動かしてください。

女1 (顔を動かす)

研究員 十年寝たきりだったので、体はすぐ動かしづらはずですから。

ちよっと、このまま待っていてください。人呼んできますので！

研究員走っていなくなる。

女1、ゆっくりと手をあげる。

道化2が入ってきて、女1を持ち上げる。

道化2は慎重に女1を床に下ろす。

女1崩れ落ちる。道化2を支えにして必死に立ち上がろうとする。

女1のリハビリの様子。バレエのような振付。

立つのもやっとから、少しづつ動きが増えていく。

女友達が車椅子を持ってきて、それに女1座る。

道化2に誘われて、二人は扉の中に。

**【Chapter 8】 男は未来を見て夢を見る。 女は今を見て夢を見る。**

座付と娘（十歳になっている）が出てくる。

掃除夫たちが紙の山を作っている。道化1と男が扉からあらわれる。

公園。子供達の遊ぶ声がかすかに聞こえてくる。

道化1 さてと。

男1 ……。

女友達が押す車椅子に乗って女1出てくる。

女1 外の空気はやっぱり美味しいねえ。

女友達 十年はあつという間だったけど、またこうして話ができるようになって  
すごく嬉しいよ。

女1 ……現実が十年経つ間に、夢の中で過ごした生活もかけがえのない  
私のもう一つの人生だったと思うよ。

女友達 実生活は、これからゆっくり取り戻していこうね。

女1 うん……。

座付、男1に気づく。見つめ合う二人。

男1は、ふと娘の方を見る。

男1 娘か……。

座付に気がつく女1。

女1 あ！

女友達 ……ああ。

女1 あの座付作家さんと夫婦だったんだよ。夢の中で。

女友達 え？

女1 なんでなんだろうね。一目惚れしたせいかな。

あの人の子供を妊娠したいって。女だけだよね、この感覚。

女友達 人を好きになるって私にはわかんないや。

私はやりがいのある仕事して、美味しいお酒があればそれで十分。

女1 アル中（笑）

女友達 うるさいよ！早く元気になって、一緒に呑みに行くんだからね！

女友達、車椅子を押して女1とともに消える。

道化1 この写真の男が誰だか、思い出せたようですね。

男1 （写真を見つめながら）これは、俺ですね。

道化1 貴方は夢を追いかけるうちに自分の顔を忘れてしまったのですよ。

男1 娘でも、顔似るもんですね……。

道化1 貴方が忘れようとしても、消えない確かな形が残る。

男1は、舞台から降りる。

座付 君の夢見て未来に跳ねる！



道化1は、客席にいる男1に掃除夫の帽子を差し出す。

道化1 さあ、貴方の次なる夢は？こちらでよろしいですかね？

男1は、座付を見据える。

男1 これがまさしく夢。あいつの夢は、俺の夢でもある。

男1は、帽子を受け取り、かぶる。

道化1 ゆめゆめ忘るることなかれ。

台詞の紙が舞台上に撒き散らかされる。

ブローアで吹くか、降らせるか。

## 【chapter 9】リフレイン

曲がかかる中、chapter 1の掃除夫たちのやりとりが

振り付けされたような動きで繰り返される。

女1は、舞台奥で寝ている。

扉を閉めるのと合わせて緞帳幕が閉まる。

## 【chapter 10】扉は開かれ、また別次元へ

幕前に道化達が出てくる。

道化1 さて、皆様いかがでしたでしょうか。

緞帳が閉まったということは、ここで物語は終わりとなりました。この幕が開けば、着替えた役者達がラインナップしております。芝居が終わってしまえば、彼らは彼ら自身に戻ります。役を演じた彼らに大きな拍手を是非ともお願い申し上げます。

しかし皆様に忘れないでいて欲しいのですが、

この幕を閉めたのは、掃除夫です。扉が開かれるとそこは別次元。皆様、お帰りの際は、現実の生活に気をつけてお帰りください。

道化2 さて、舞台監督から合図がきました。準備は整ったようですので幕を開ける事にしましょう。

開けゴマ!!!!!!

## 【chapter 1】カーテンコール

幕が開くと、着替えた役者たちがラインナップしている。

前に並んで出てきて、深く礼。

全員、客席通路を歩いてハケ。